

# 教育に関する事務の管理及び執行の 状況の点検及び評価報告書

(平成30年度分)

令和元年8月

北名古屋市教育委員会



## 1 はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しています。

本市では、平成27年6月に、市長と教育委員会が相互に連携を図り、教育の目標や施策の根本的な方針である「北名古屋市教育大綱」を策定しました。

「北名古屋市教育大綱」及び「推進スキーム」をもとに実施した主要な事業を抽出し、その各事業に対して、教育に関し学識経験を有する外部評価委員の知見を活用して点検及び評価を行い、意見をいただきながら事業の「成果」、「課題」を実績データに基づき検証するとともに「今後の対応」を項目ごとに整理することで、計画(plan)、実行(do)、評価(check)、改善(action)へと繋げるマネジメント・サイクルを機能させ、目標達成に向けた継続的な改善の指針とするためのものとして、点検・評価報告書をまとめました。

## 2 点検及び評価の対象

平成30年度における教育委員会所管の事業から、重点目標の達成に資する主な事業を抽出し対象としました。

## 3 点検及び評価の方法

- (1) 点検及び評価にあたっては、基本方針・重点目標を明らかにするとともに、事業の執行に伴う成果、課題について実績データを基に整理し、今後の対応を明記しました。
- (2) 点検及び評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する方2名を北名古屋市教育委員会外部評価委員に委嘱し、北名古屋市教育委員会外部評価委員会においてご意見、ご助言をいただくとともに、評価書に意見を付しました。
- (3) 点検及び評価にあたっては、その結果を評価報告書として取りまとめ、令和元年8月開催の北名古屋市教育委員会にて議決をしました。

### 【令和元年度外部評価委員】

(敬称略)

氏名	所属
玉置 崇	岐阜聖徳学園大学 教育学部 教授
加藤 聡一	名古屋芸術大学 人間発達学部 子ども発達学科 准教授

## 4 教育委員会の活動

### (1) 北名古屋市教育委員名簿

平成 30 年 6 月 1 日現在

職 名	氏 名	任 期
教 育 長	吉 田 文 明	平成 30 年 6 月 1 日～令和 3 年 5 月 31 日
教育長職務代理者	池 山 健 次	平成 29 年 5 月 23 日～令和 3 年 5 月 22 日
委 員	大 口 喜久子	平成 27 年 5 月 23 日～令和 元年 5 月 22 日
委 員	加 藤 知津子	平成 28 年 5 月 23 日～令和 2 年 5 月 22 日
委 員	鈴 野 範 子	平成 28 年 5 月 23 日～令和 2 年 5 月 22 日
委 員	岡 島 秀 隆	平成 30 年 5 月 23 日～令和 4 年 5 月 22 日

### (2) 教育委員会会議内容

4 月 11 日 (水)	1 教育委員長報告 2-1 教育長報告 2-2 その他報告 (1) 小中学校の組織現況について (2) 愛日地方教育事務協議会について (3) 平成 29 年度中学生及び英語担当教員の英語力について 2-3 所管事項報告 (1) 学校教育課 平成 29 年度北名古屋市フォローアップ委員会概要について (2) 生涯学習課 ア 平成 29 年度中学生語学留学事業（グアム英語研修ツアー）行程表について イ 歴史民俗資料館企画展について
5 月 16 日 (水)	1 前議事録の承認 2 教育委員長報告 3-1 教育長報告 3-2 その他報告 ア 西春日井地区教育会等について イ 都市教育長会について

	<p>ウ 進路状況について</p> <p>3-3 所管事項報告</p> <p>(1) 学校教育課 市議会について</p> <p>(2) 生涯学習課 北名古屋市文化芸術振興激励金交付要綱等について</p> <p>(3) スポーツ課 北名古屋市スポーツ競技全国大会等出場者激励費支給要綱の一部改正について</p> <p>4 議事</p> <p>議案第10号 北名古屋市教育長の営利企業等の従事制限に関する規則の制定について</p> <p>議案第11号 北名古屋市教育長職務代理者の事務の委任に関する規則の制定について</p> <p>議案第12号 北名古屋市教育委員会公印規程の一部改正について</p> <p>議案第13号 北名古屋市立中学校部活動指導員設置要綱の一部改正について</p> <p>議案第14号 北名古屋市社会教育委員の推薦について</p> <p>5 北名古屋市教育委員会委員長の選挙について</p> <p>6 北名古屋市教育委員会委員長職務代理者の選挙について</p>
6月6日 (水)	<p>1-1 教育長報告</p> <p>1-2 その他報告</p> <p>(1) 愛日地方教育事務協議会について</p> <p>(2) 全国都市教育長会について</p> <p>2 所管事項報告</p> <p>(1) 学校教育課</p> <p>ア 北名古屋市教育委員会教育長及び教育委員名簿について</p> <p>イ 市議会について</p> <p>ウ 教科書採択における公正確保の徹底等について</p> <p>(2) スポーツ課 総合運動広場周辺対策整備工事について</p>
7月12日 (木)	<p>1 前議事録の承認</p> <p>2-1 教育長報告</p> <p>2-2 その他報告</p>

	<p>尾張部都市教育長会議について</p> <p>2-3 所管事項報告</p> <p>(1) 学校教育課</p> <p>ア 平成30年度における夏季休業中の学校閉庁日の設定について</p> <p>イ 開錠時間・施錠時間の設定について</p> <p>ウ 「ネット犯罪から子どもを守るために（緊急アピール）」文の賛同について</p> <p>(2) 生涯学習課</p> <p>ア 夏季休暇中における児童・生徒の宿泊を伴う行事への参加について</p> <p>イ 歴史民俗資料館企画展について</p> <p>(3) スポーツ課</p> <p>ア 平成30年度北名古屋市運動会・体育大会について</p> <p>イ 北名古屋市ジャンボプールの開場について</p> <p>3 議事</p> <p>議案第15号 北名古屋市社会教育委員の推薦について</p> <p>議案第16号 北名古屋市文化財保護審議会委員の推薦について</p> <p>議案第17号 北名古屋市図書館協議会委員の推薦について</p> <p>議案第18号 平成31年度使用小・中学校教科用図書の採択について</p>
8月2日 (木)	<p>1 前議事録の承認</p> <p>2-1 教育長報告</p> <p>2-2 その他報告</p> <p>ア 西春日井支所中学校体育大会について</p> <p>イ 熱中症対策について</p> <p>2-3 所管事項報告</p> <p>学校教育課</p> <p>ア 平成30年度西春日井支所中学校体育大会成績一覧について</p> <p>イ 平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について</p> <p>3 議事</p> <p>議案第19号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書について</p> <p>議案第20号 愛知県教科用図書採択地区の適正規模化に係る意向確認について</p>
8月20日	<p>1 前議事録の承認</p>

(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>2-1 教育長報告</li> <li>2-2 その他報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 校長会要望事項等について</li> <li>イ 平成29年度決算審査の講評（要旨）について</li> </ul> </li> <li>2-3 所管事項報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育課 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 学校の夏季における休業日に関する児童生徒等の健康確保に向けた対応等について</li> <li>イ 教員の多忙化解消に向けた取組の進捗状況について</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>3 議事 <ul style="list-style-type: none"> <li>議案第21号 北名古屋市就学援助費支給要綱の一部改正について</li> </ul> </li> </ul>
10月1日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 前議事録の承認</li> <li>2-1 教育長報告</li> <li>2-2 その他報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 市議会について</li> <li>イ 岐阜聖徳学園大学との連携協力に関する協定について</li> </ul> </li> <li>2-3 所管事項報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学校教育課 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 北名古屋市私立高等学校等就学助成金交付要綱の一部改正について</li> <li>イ 平成30年度夏季休暇中における英語研修（報告）について</li> </ul> </li> <li>(2) 生涯学習課 <ul style="list-style-type: none"> <li>北なごやパペットフェスタ2018実施結果について</li> </ul> </li> <li>(3) スポーツ課 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア ジャンボプール入場者数について</li> <li>イ 総合体育館空調設備等改修工事に伴うトレーニング室使用不可期間中の定期券の取扱いについて</li> <li>ウ 市民体育祭について</li> <li>エ 第13回愛知県市町村対抗駅伝競走大会北名古屋市代表チーム選手について</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>3 議事 <ul style="list-style-type: none"> <li>議案第22号 平成31年度教職員定期人事異動方針について</li> </ul> </li> </ul>
11月2日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 前議事録の承認</li> <li>2-1 教育長報告</li> </ul>

	<p>1 前議事録の承認</p> <p>2-1 教育長報告</p> <p>2-2 その他報告</p> <p>(1) 小学校ブロック別サッカー・バスケットボール競技会の結果について</p> <p>(2) 愛日地方教育事務協議会について</p> <p>(3) 尾張部都市教育長会議について</p> <p>2-3 所管事項報告</p> <p>(1) 学校教育課</p> <p>ア 平成30年度全国学力・学習状況調査結果資料について</p> <p>イ 文部科学省生徒指導上の諸問題について</p> <p>ウ 平成30年度愛知県緑化ポスター原画コンクールの審査結果について</p> <p>エ 平成30年度愛知県健康推進学校表彰校について</p> <p>オ 平成30年度公益社団法人日本PTA全国協議会会長表彰（団体）について</p> <p>カ 学クラ新聞「学習支援・居場所づくりを軸とした、放課後子ども教室での取り組み」について</p> <p>(2) 生涯学習課</p> <p>歴史民俗資料館企画展について</p> <p>(3) スポーツ課</p> <p>北名古屋市民体育祭2018報告書について</p> <p>3 議事</p> <p>議案第23号 平成31年度小中学校の儀式等について</p>
<p>12月5日 (水)</p>	<p>1-1 教育長報告</p> <p>1-2 その他報告</p> <p>市議会について</p> <p>2 所管事項報告</p> <p>(1) 学校教育課</p> <p>ア 師勝東小学校PTA会長表彰について</p> <p>イ 平成31年度教育委員会定例会予定について</p> <p>ウ 平成30年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰の決定について</p> <p>(2) 生涯学習課</p>

	<p>ア 平成30年度中学生語学留学事業（グアム英語研修ツアー）について</p> <p>イ 平成31年北名古屋市成人のつどいについて</p> <p>(3) スポーツ課</p> <p>ア 第13回愛知県市町村対抗駅伝競走大会の結果について</p> <p>イ 第4回北なごやふるさとマラソンについて</p>
1月9日 (水)	<p>1-1 教育長報告</p> <p>1-2 その他報告</p> <p>(1) 「高校生とともに教師の魅力を考えるフェスタ2108」について</p> <p>(2) 北名古屋いじめ子どもサミットについて</p> <p>2 所管事項報告</p> <p>(1) 学校教育課</p> <p>ア タイムレコーダーの集計による残業時間の状況について</p> <p>イ 儀式・行事への来賓案内について</p> <p>(2) 生涯学習課</p> <p>ア 北名古屋市放課後子ども教室事業実施要綱の一部改正について</p> <p>イ 北名古屋市放課後子ども教室利用料の減額又は免除に関する要綱の一部改正について</p>
2月4日 (月)	<p>1 前議事録の承認</p> <p>2-1 教育長報告</p> <p>2-2 その他報告</p> <p>(1) 愛日地方教育事務協議会について</p> <p>(2) 愛知県都市教育長協議会について</p> <p>2-3 所管事項報告</p> <p>(1) 学校教育課</p> <p>ア 儀式への来賓案内等について</p> <p>イ 学校給食の異物混入事故の顛末について</p> <p>ウ 北名古屋市の学校給食における危機管理マニュアル【異物混入編】の改訂について</p> <p>(2) 生涯学習課</p> <p>子ども伝統芸能体験教室成果発表会について</p> <p>(3) スポーツ課</p> <p>ア 第4回北なごやふるさとマラソンの結果について</p>

	<p style="text-align: center;">イ スポーツ講演会について</p> <p>3 議事</p> <p>議案第1号 平成31年度全国学力・学習状況調査について</p> <p>議案第2号 平成31年度学校教育目標について</p> <p>議案第3号 北名古屋市部活動指導ガイドラインについて</p> <p>議案第4号 平成31年度小中学校の儀式等について</p>
2月27日 (水)	<p>1 前議事録の承認</p> <p>2-1 教育長報告</p> <p>2-2 その他報告</p> <p>(1) 県教育長研修会について</p> <p>(2) 尾張部都市教育長会について</p> <p>(3) 市議会について</p> <p>2-3 所管事項報告</p> <p>(1) 学校教育課</p> <p style="padding-left: 2em;">平成30年度小中学校卒業式教育委員会告辞及び来賓祝辞等名簿について</p> <p>(2) 生涯学習課</p> <p style="padding-left: 2em;">平成30年度中学生語学留学事業（グアム英語研修ツアー）について</p> <p>3 議事</p> <p>議案第5号 第2期北名古屋教育推進スキームについて</p> <p>議案第6号 平成31年度北名古屋市教育委員会基本方針について</p> <p>議案第7号 北名古屋市共同学校事務室設置規程の制定について</p> <p>議案第8号 北名古屋市立学校管理規則の一部改正について</p> <p>議案第9号 北名古屋市立学校における学校事務組織の編制及び事務の共同処理に関する要綱の廃止について</p> <p>議案第10号 北名古屋市立中学校スクール・サポート・スタッフ設置要綱の制定について</p> <p>議案第11号 北名古屋市立学校評議員設置要綱の廃止について</p> <p>議案第12号 北名古屋市公民館の設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正について</p> <p>議案第13号 北名古屋市文化会館の設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正について</p> <p>議案第14号 北名古屋市勤労福祉会館の設置及び管理に関する条例施</p>

	<p>行規則の一部改正について</p> <p>議案第15号 北名古屋市体育館の設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正について</p> <p>議案第16号 北名古屋市ソフトボール球場の設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正について</p> <p>議案第17号 北名古屋市運動広場等の設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正について</p> <p>議案第18号 北名古屋市総合運動広場の設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正について</p> <p>議案第19号 教職員の人事異動について</p>
3月29日 (金)	<p>1 所管事項報告</p> <p>(1) 教職員の人事異動について</p> <p>(2) 市職員の人事異動について</p>

(3) 教育委員が出席した学校行事

ア 入学式

小学校 4月6日(金)

中学校 4月5日(木)

イ 学校訪問

師勝中学校 5月21日(月)、天神中学校 6月11日(月)

栗島小学校 6月18日(月)、五条小学校 6月25日(月)

師勝東小学校 10月18日(木)、師勝小学校 10月29日(月)

熊野中学校 11月5日(月)、師勝南小学校 11月15日(月)

ウ 運動会・体育大会

師勝小学校、西春小学校 10月2日(火)

五条小学校、師勝北小学校、栗島小学校、白木小学校 10月3日(水)

鴨田小学校 10月4日(木)

師勝西小学校 10月9日(火)

師勝東小学校 10月10日(水)

師勝南小学校 10月15日(月)

中学校 9月26日(水)

エ 卒業式

小学校 3月20日(水)

中学校 3月5日(火)

## 5 総合教育会議

(1) 第1回 10月2日(火)

議題

北名古屋市教育大綱について

(2) 第2回 平成31年2月4日(月)

議題

ア 北名古屋市教育大綱について

イ 第1次実施計画重点プロジェクトについて

## I 学校教育課

学校教育課は、「規律」「学力」「自己有用感」をキーワードに、全ての児童生徒が「社会を生き抜く力」を育み、児童生徒・保護者・市民から「信頼される学校教育」を推進することを基本目標とした。さらに、基本目標の実現に向け6つの重点目標を定め、27施策60事業を実施した。ここでは、抽出した3重点目標・3施策を対象とした。

はじめに、学校は、学校教育活動の改善・充実に向け、検証改善サイクルに取り組んでいる。この検証改善サイクルを効率よく展開するために必要な諸条件を整備していくのがカリキュラムマネジメントの基本的営みである。取り上げる課題は、「めざすものと現状との差」と捉え、たとえ現状がある程度満足できる状態であったとしても、さらに上を目指したいと意欲を持てば、そこに課題、差異が立ち現れる。いずれにしても、「守り」ではなく「攻め」の姿勢で臨むカリキュラムマネジメントの徹底は、重点目標「社会を生き抜く力を育む」を全ての児童生徒に実現するために必須であり、信頼される学校教育の推進、実現において極めて重要な施策として位置づけている。

次に、家庭の経済状況や環境による学力や進学機会の差異が、その後の就労・賃金にも影響しているとの指摘を踏まえ、こうした差異の縮小・解消に向け、経済的支援策として教育費の一部を援助するとともに、少人数指導等のきめ細かい指導や補習学習などの学び直し機会の充実により、学ぶ意欲の向上や基礎学力の定着等の学力を保障する。こうした学びのセーフティネットの充実は、困難を抱える児童生徒の現状を支援するだけでなく、将来の可能性をも保障する未来志向的施策として重要である。さらに、教育への機会が全ての児童生徒に均等に開かれ、公平・公正で活力ある競争によって誰もが自らの努力によって夢と誇りを育み、実現する社会を保障・補完する施策であり、社会の安定化、活性化に寄与する施策でもある。

3点目、専門職である教員にとって、教科や教職の専門知識は、日々学び、更新を続けなければならないほど重要である。児童生徒の実態や授業づくりに即して、絶えず教科・教職の知見、教育実践力をブラッシュアップ、再構築していくことが求められている。教員の大量退職・大量採用の中、教育は「量」から「質」の時代へと転換し、教育内容、学びの様式、教育システムの改革に、教育現場は総力を挙げて取り組んでいる。しかし、皮肉なことにこの改革を目指した様々な施策が、教員の多忙化を促進させ、教育の質の向上をめざして学び続ける教員を疲弊させている。見過ごすことのできないほど深刻な状況に陥っている。国の盛衰がかかった教育改革は、学校を支え、学び続ける教員への支援を充実する施策、言い換えると働き方改革の成否にあるとしても過言ではない。

## カリキュラムマネジメントの徹底

### 平成30年度教育委員会点検及び評価書

基本方針	「規律」「学力」「自己有用感」をキーワードに、児童生徒に「社会を生き抜く力」を育む信頼される学校教育を推進する。
重点目標	<p>社会を生き抜く力を育む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導を工夫して、学習指導要領の内容を確実に習得、育成する。 (成果指標) 標準学力検査で「満足できる状況」以上の通過率 小学校低学年 90% 中・高学年 85%、中学校 80%以上</li> <li>・カリキュラムマネジメントを徹底する。 (成果指標) 標準学力検査で「満足できる状況」以上の通過率 小学校低学年 90% 中・高学年 85%、中学校 80%以上 授業がわかる 児童 80%以上、生徒 70%以上 学校が楽しい 児童・生徒 90%以上</li> </ul>
平成30年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は、調査結果をS-P表を活用し、誤答分析を行った。</li> <li>・分析結果をもとに、指導内容や指導方法等の見直し、改善のための具体的な対応策について全校で検討し、まとめた。</li> <li>・まとめに基づき非常勤講師を活用し、或いは再配置をし、きめ細かな指導（少人数指導、ティーム・ティーチング指導、取り出し指導等）を行った。</li> <li>・学期ごとに振り返り、課題解決に向けて取り組んだ。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校で、検証改善サイクルの運用にあたって、カリキュラムマネジメントが徹底された。</li> <li>・多くの児童生徒が、目標とする学力や授業がわかる喜びを手にした。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検証改善サイクルは確立し、定着期に入った。しかし、少なからず基本事項である「協働して分析」「個別に実践」「結果は共有」は、わかっているが、積極的に使う、或いは使い切るレベルに至っていない。</li> <li>・小学校標準学力調査が、新しい学習指導要領に基づいた調査であり、調査結果は、各小学校の新学習指導要領への対応状況を示す結果である。新学習指導要領への対応は、今一步であった。</li> </ul>
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本事項「協働して分析」「個別に実践」「結果は共有」の見える化と日常化を図る。</li> <li>・残された時間は僅かであるが、新学習指導要領が目指す子どもの姿と眼前の子どもの姿から、指導理念や目標・内容・方法について、日常的に検証改善し、完全実施に備える。</li> </ul>

<p>外部評価委員 の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が楽しい場所である（87～88％）ことを重視しつつ、学力の定着に意欲的に取り組んでいる。分析にあたっては、数値の持つ意味の分析と共有に進んでほしい。国語力定着では、同一集団で見ると（学年をコホートとみる）小4は、92→86→84、小3は、96→91→83、小2は、95→90と低下傾向にあり、それが3年連続している。算数と同じ傾向である。数値の低下が直ちに問題とは限らないが、各学校で実態を把握して、よい取り組みは共有、問題があるとすれば何か分析したい。教育委員会では、全国的影響（新学習指導要領の「学力」のとらえ方自体の変化など）がないか分析して、各学校に情報提供して、カリキュラムマネジメントを支援する形を取ってほしい。</li> <li>・標準学力検査で「満足できる状況」以上の通過率を具体的に決めて取り組むことは、実はなかなかできることではない。また、分析結果に基づいて非常勤講師を活用したり、再配置したりして、学校現場をきっちり支援されていることは特筆すべきことである。まさにエビデンスに基づいて、的確な教育行政がされている。</li> </ul> <p>今後は、取組に示されたきめ細かな指導による児童生徒の変化を具体的に述べ、成果をより市民に伝わるようにされるとよい。</p>
-----------------------	--

○実績データ

- 1 国語力の定着状況「目標とする学力におおむね達成している児童生徒」の通過率  
(標準学力調査結果) 単位：%

区分	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2
平成30年度	88	90	83	84	84	90	89	91
平成29年度	95	91	86	90	91	91	90	92
平成28年度	96	92	85	90	90	92	90	92

太線の区画は成果指標以上であることを示している。

- 2 算数・数学力の定着状況「目標とする学力におおむね達成している児童生徒」の通過率  
(標準学力調査結果) 単位：%

区分	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2
平成30年度	84	89	84	82	79	84	85	83
平成29年度	91	90	89	78	82	84	85	85
平成28年度	92	92	87	79	81	81	87	85

太線の区画は成果指標以上であることを示している。

- 3 授業がよくわかる児童生徒・学校が楽しい児童生徒  
(平成30年12月 国立教育政策研究所 生活調査) 単位：%

設問	小4	小5	小6	中1	中2	中3
授業がよくわかる	83.8	85.9	89.8	80.0	70.2	74.6
学校が楽しい	87.9	87.2	87.4	87.7	87.2	88.4

○重点目標に係る予算額 (単位：千円)

関係事業名	平成29年度	平成30年度	令和元年度
学び支援事業費	104,298	104,001	94,513
英語指導事業費	42,585	48,073	65,426
I T教育支援事業	192,348	196,131	193,397
標準学力検査(小学校振興費内)	3,725	3,827	3,879
標準学力検査(中学校振興費内)	3,179	3,142	3,121
現職教育研修事業(小学校振興費内)	620	620	605
現職教育研修事業(中学校振興費内)	300	300	278

## 学びのセーフティネットの充実

### 平成30年度教育委員会点検及び評価書

基本方針	「規律」「学力」「自己有用感」をキーワードに、児童生徒に「生き抜く力」を育む信頼される学校教育を推進する。
重点目標	学びのセーフティネットの充実
	学習や社会生活に困窮を有する児童生徒への支援の充実 (成果指標) 就学援助制度の周知 アフタースクール 満足度 100% (生涯学習課 放課後子ども教室充足率 100%)
平成30年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学援助制度については、毎年度、全小中学生保護者を対象にきめ細かな広報をし、周知の徹底を図った。</li> <li>・援助単価、認定基準等は国に準じており全国水準にある。</li> <li>・新たに平成30年度より、新入学児童生徒対象に前倒し支給を開始した。</li> <li>・児童生徒一人ひとりの学びを充実させるための基礎づくりを始め、きめ細やかな指導を行うため、各小中学校が策定する「学び支援事業実施計画書」に基づき、小学校10校に22人、中学校6校に12人の非常勤講師を配置した。</li> <li>・小学校4年生以上と中学生を対象に、5月から3月までの放課後や長期学校休業日等に1回当たり1～3時間程度アフタースクールを開催した。地域の学習支援ボランティアも加わり、学力の向上に向けて児童生徒を指導・支援した。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校4年生の経済的背景が困難な児童生徒の学力について、格差拡大の傾向がみられるが、中学生になると改善されている。</li> <li>・小学校4年生から実施しているアフタースクール等の効果に因るところも大きいと考えられる。</li> <li>・評定出現率からは、極端な学力格差に至っていない。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲を持ってない児童生徒、生活習慣が乱れている児童生徒、伸び悩んでいる児童生徒を把握し、個に合わせた指導が求められている。</li> <li>・学力の2極化傾向に歯止めをかけ、是正する。</li> </ul>
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲の喚起、生活習慣の定着、自己有用感の向上、基礎学力の定着を授業をはじめ全教育活動を通して行う。特に日々の授業で行えるようにカリキュラムマネジメントする。</li> <li>・アフタースクールや放課後子ども教室の指導方法、内容を検討し、成果の質を高め、参加率を高める。</li> <li>・社会と地域とのつながりを活用した教育支援活動を充実する必要がある。教育行政、学校教職員と福祉専門員が適切に連携を図り、保護者・市民との連携や協働に一層の充実・強化を図る。</li> </ul>

<p>外部評価委員 の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度の周知の徹底から、ネットの目を細かく、実際の満足度も高い結果を生み出している。新学習指導要領実施に向けて、これまでの取り組みから特に「自己有用感」（学力を活用する機会）につながる取り組みに重点を置いて「引き継ぐ」形が望ましいように思う。中学生になると「格差」が是正される原因も知りたい。</li> <li>・就学援助制度の周知徹底、さらに新入学児童生徒対象に前倒し支給をされていることなど、他自治体からも注目を浴びるに違いない成果がある。アフタースクール受講者の満足度も、ほぼ目標値に達していることも評価したい。</li> </ul> <p>家庭環境によって、学びから逃避する傾向のある児童生徒が増加する。とはいえ、現在の学校の多忙化に拍車をかけるわけにはいかない。さらなる人的措置を検討されたい。</p>
-----------------------	---

○実績データ

1 就学援助制度に関する周知状況

本市においては、全小中学校で、毎年度の入学・進級時に学校で就学援助制度の周知・啓発文書を配布している。また、市の広報においても周知している。

(国の直近の調査によると、配布している市町村割合は平成 29 年度 78%)

2 校種別就学援助費受給者総数 (受給者構成比率%)

小学校 : 515 人 (10.3%) 中学校 : 314 人 (12.8%) 総数 : 829 人 (11.1%)

3 学年別年間就学援助費の一人当たりの総額 (準要保護世帯の例示)

小学校平均年間支給額 80,402 円

支給学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6
年間支給額	107,950	69,580	69,580	69,580	73,200	92,522

【要保護世帯例示 107,260 円】

中学校平均年間支給額 143,570 円

支給学年	中1	中2	中3
年間支給額	165,850	95,950	168,909

【要保護世帯例示 188,900 円】

4 アフタースクールの状況 (授業後の基礎学力補習)

受講者数 小学校 4 年以上 183 人 中学校全学年 115 人

受講者評価 中学校 78 人中 満足 : 70 人 (90%) 普通 : 7 人 (9%)

5 評定出現率の分布

※ 次ページ参照

6 平成 30 年度高等学校等進学率 (就職・無業以外の割合)

市全世帯の生徒 : 98% 準要保護世帯の生徒 : 96%

要保護世帯の生徒 : 100%

○重点目標に係る予算額

(単位 : 千円)

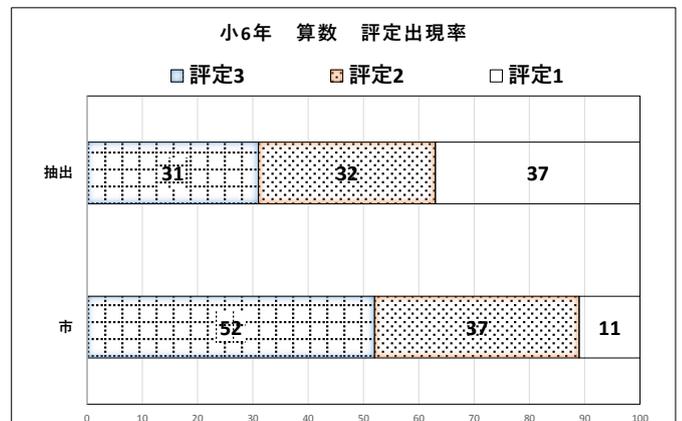
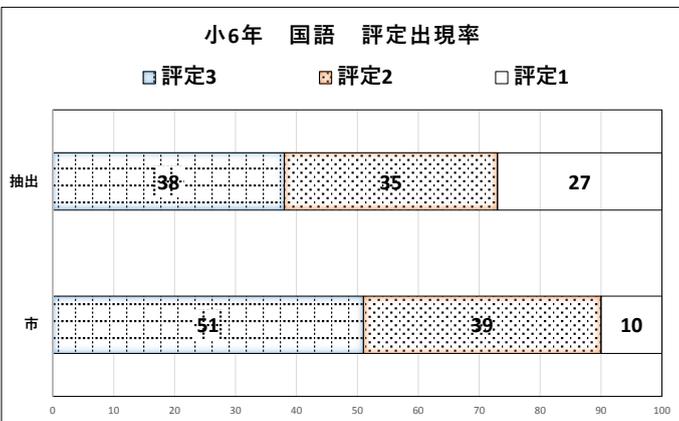
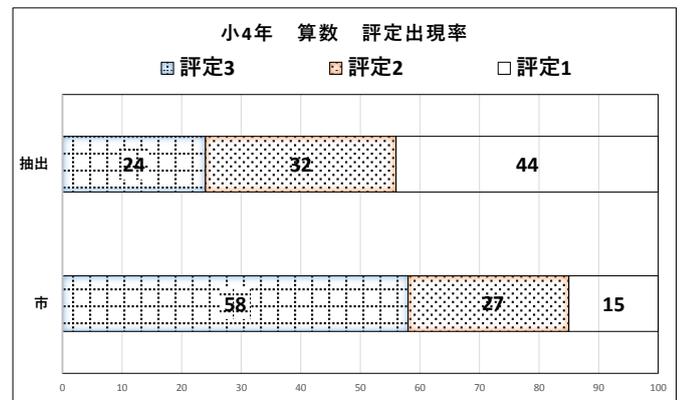
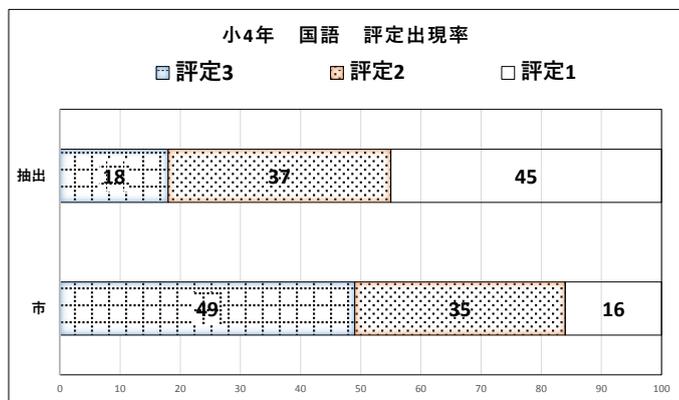
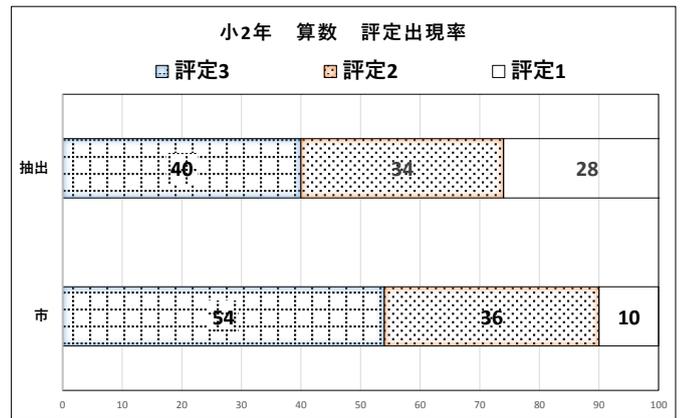
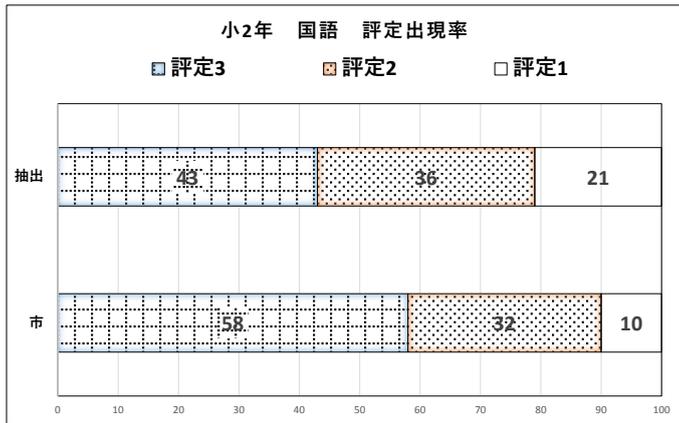
関係事業名	平成29年度	平成30年度	令和元年度
要保護児童生徒就学援助費	64,977	71,937	69,975
学び支援事業費	104,298	104,001	94,513

目標基準準拠評価に基づく標準学力検査の評価による評定出現率の分布

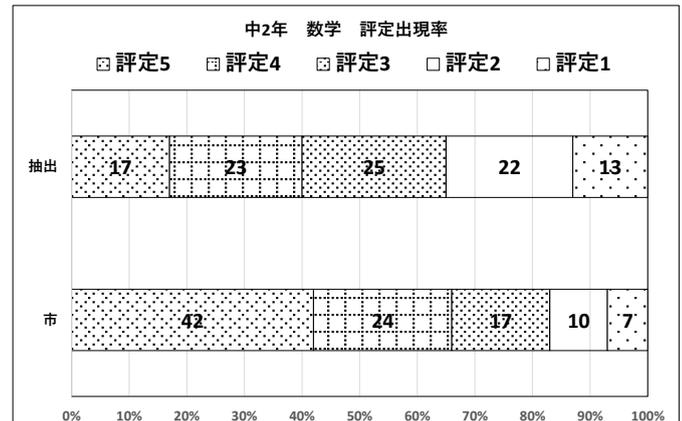
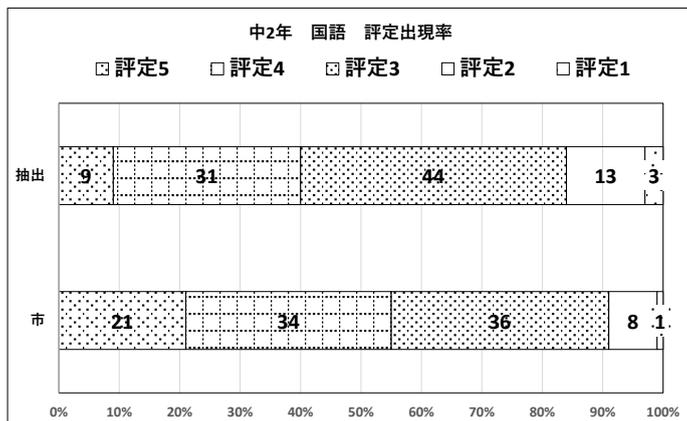
抽出：経済的背景が困難な児童・生徒を抽出

グラフの数値は構成比%

小評定：評定3→十分満足 評定2→おおむね満足 評定1→努力を要する



中評定：評定5→特に満足 評定4→十分満足 評定3→おおむね満足 評定2→努力を要する 評定1→一層努力を要する



## 教育環境の充実

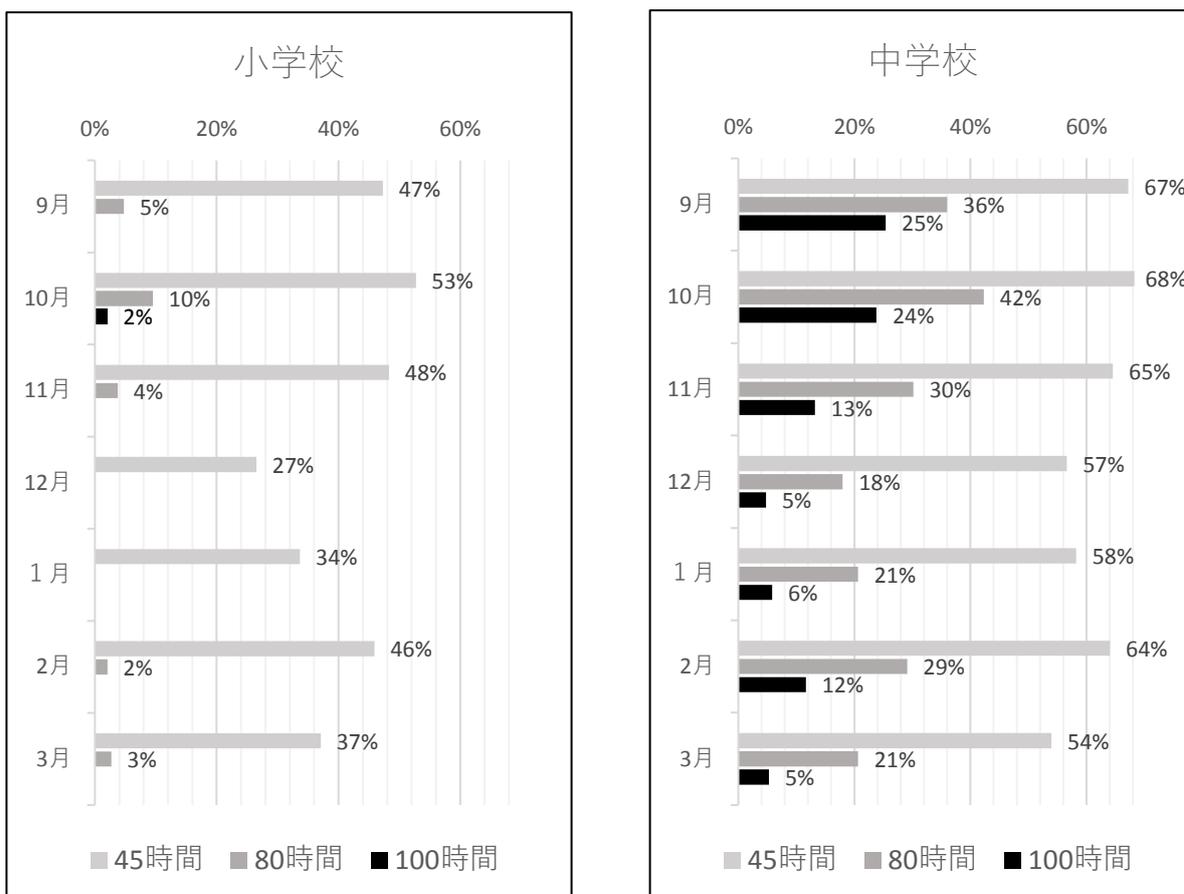
### 平成30年度教育委員会点検及び評価書

基本方針	「規律」「学力」「自己有用感」をキーワードに、児童生徒に「生き抜く力」を育む信頼される学校教育を推進する。
重点目標	学び続ける教員への支援の充実
	働き方改革を推進する (成果指標) 在校時間 80 時間以上の教職員の割合 小学校 5%以下、中学校 20%以下
平成30年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムレコーダーを全校に導入し、在校時間管理の徹底を図った。</li> <li>・学校の開錠時間、施錠時間を設定するとともに、時間外は留守番電話機能による対応とした。</li> <li>・夏季休業中に学校閉校日を設定した。</li> <li>・人事評価等を通じた管理職の意識改革を促進した。</li> <li>・教職員のメンタルヘルス対策を推進した。</li> <li>・外部人材の登用による部活動指導員制度を構築した。</li> <li>・多忙化解消の取組をコミュニティ・スクールやPTA会議等で説明するとともに案内文等で周知した。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校での退校の声かけなどにより、在校時間に関する意識が高まった。</li> <li>・各教員による在校時間記録や集計事務の負担を軽減した。</li> <li>・管理職が各教員の在校時間を随時、把握が可能となり、在校時間に関する管理の強化が図れた。</li> <li>・夏季休業中に学校閉校日を設定したことで、教職員の有給休暇取得に活用することができた。</li> <li>・部活動指導員の登用により、部活動指導に関わる教員の負担を軽減した。</li> <li>・教員の在校時間の是正に向けた具体的な取組について、保護者の理解を得ることができた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在校時間を意識し業務改善を進めた中で、更に在校時間を削減するため、短時間で成果を上げて質の向上に取り組む必要がある。</li> <li>・教員のストレス状態の把握に努め、必要に応じて支援を行い、適切な健康管理に努める必要がある。</li> </ul>
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の多忙化解消の取組が着実に進んでおり、在校時間 80 時間以上の職員の割合を 0%とする目標値について、次に何ができるかを学校現場、教育委員会がともに考えていく。</li> <li>・市部活動指導ガイドラインに基づく取組を徹底し、児童生徒にとってより効果的な指導を適切な活動時間の中で行う。</li> <li>・国の教員の多忙化解消の取組に向けた動向に注視し、教員を補助する人材活用制度等を積極的に活用していく。</li> </ul>

外部評価委員 の意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・教員の働き方が健康の保持とともに教育活動の充実につながる意義を危機感を持っておさえている点、出退勤時間の把握、保護者への説明など、できることを遅延なく行っていることは高く評価できる。退勤時間が早くなることで、教員の人生がどう充実したのか、そちらの声も聞きたい。</li><li>・国が示した「働き方改革」を先んじて実施している状況であり、まさに待ったなしの教育行政が一步先に進んでいるととらえる。 今後は、高ストレス判定者数の減少にご尽力いただきたい。市内管理職間で、高ストレスを示す教職員の傾向を共有化するなど、職場環境の改善に努めるように指導をしていただきたい。</li></ul>
---------------	--

○実績データ

1 出退勤時間記録の集計による残業者数の割合



2 平成30年度ストレスチェックの実施結果

区分	対象者数	回答者数	実施率	高ストレス判定者数	高ストレス者の割合
第1回	417人	370人	88.7%	45人	12.1%
第2回	415人	404人	97.3%	46人	11.4%

3 中学校部活動指導員設置状況

種別	人数
運動部	9
文化部	2

## ○重点目標に係る予算額

(単位：千円)

関係事業名	平成29年度	平成30年度	令和元年度
ストレスチェック事業	58	55	55
部活動指導員設置事業	—	3,456	2,670
フォローアップ委員会委員謝礼	—	12	12
スクール・サポート・スタッフ設置事業	—	—	1,128

## II 生涯学習課

生涯学習課では、平成 28 年度に北名古屋地域学校協働本部要綱を策定し、地域学校協働本部を立ち上げるとともに、学校・地域・保護者等がネットワークを構築して地域全体で子どもたちの成長を支えてけるよう積極的に取り組んでいる。その中心的な役割を担っているのが統括的な地域学校協働活動推進員で、地域と学校との調整役を果たしており、絆づくりにより活力あるコミュニティ・スクールの形成に向けた体制づくりを行っている。

放課後児童対策では、放課後子ども教室を平成 29 年 6 月から小学校全 10 校で開室しており、うち 8 校は地元 NPO 法人等へ運営委託し、保護者からの要望にも柔軟な対応が可能となり利用する児童も増加した。学習に特化した教室運営を基本とし「やり切る力」を身につけることを重点として進めている。今後も放課後子ども教室の質の向上と学習環境を整えることを進めていきたい。

家庭教育推進事業では、子どもが健全に成長できるよう家庭での教育支援を行い地域や家庭の教育力の活性化を図るため、家庭教育推進講演会を保育園や小学校で開催するとともに子育て中の親等を対象とした「いきいき子育て講座」を託児付きで開催するなど行っている。

土曜の子どもの居場所づくりでは、学校のない土曜日の子ども達の安全・安心な居場所づくりの充実と「学び」と「体験」を重視した学習活動の提供を目的として、「土曜英語教室」「子ども伝統芸能体験教室」「子ども人形劇団」「少年少女発明クラブ」というラインナップを揃え、掛け持ちで学習する児童もあるほど盛況である。それぞれ発表の場やコンテストへの出品など成果を披露する場が設けられており、目標に向かって努力する姿を保護者や祖父母達が楽しみにしている。今後も、多くの要望・ニーズに応えるべく、それぞれの事業の発展と充実に努めていきたい。

図書館は、子ども読書活動の推進に力を入れており、子ども達向けに教育普及事業としてイベントを開催し、子ども達に、図書館及び図書資料を活用し、読書に親しむ機会を提供したことで児童書の貸出冊数が増加した。本に親しむことで夢と志を持ち、可能性に挑戦し生き抜くために必要な力を育成することに寄与している。

歴史民俗資料館は、昭和日常博物館及び回想法を展開する施設として独自の取り組みにより注目を集め高い評価を得ている。また、展示会と連動したワークショップの展開により展示会場の活性化を図り、昭和の暮らしを伝える博物館として注目され、高い入館者数を維持している。

## 地域学校協働本部事業

### 平成 30 年度教育委員会点検及び評価書

基本方針	<p>絆づくりと活力あるコミュニティの形成に向けた学習活動や体制づくりの推進</p>
重点目標	<p>社会全体で子どもたちの活動を支援する取組の推進</p>
	<p>地域学校協働本部の働きかけにより、研修等をとおして地域学校協働活動推進員(以下「推進員」という。)の質的充実を図り、登録増につなげる。コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)が実り多いものになるため、地域学校協働活動を広く展開する。</p>
平成30年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学校協働活動推進情報交換会及び研修会 年3回開催</li> <li>・愛知県主催地域コーディネーター等研修会及び津島市地域学校協働活動講演会 年3回開催に参加</li> <li>・和歌山県有田郡湯浅町コミュニティ・スクール研修会において講演を行った。</li> <li>・読み聞かせボランティア研修会 平成30年7月開催</li> <li>・ボランティア講演会「みんなの力で学校を楽しくしよう！」 平成30年9月開催</li> <li>・図書整備ボランティア講座 平成30年11月開催</li> <li>・推進員は、各小中学校で定期的に行われる学校運営協議会や小中連携部会、研修会等に参加し、コミュニティ・スクールの実践に取り組んでいる。</li> </ul>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・五条小学校の地域学校協働活動が認められ、文部科学大臣表彰を受賞した。</li> <li>・学校運営協議会と地域学校協働活動を一体化させたコミュニティ・スクールの取組について、県内外からの問合せや視察が増えてきた。</li> <li>・それぞれの立場や組織で何をすべきか、何ができるかを考え、一人ひとりが当事者意識をもって活動するようになってきた。</li> <li>・学校や地域の現状に合わせた活動が行われてきた結果、学校と保護者、地域の思いの共有・連携が図られ、距離が縮まり、同じ方向性で活動することへとつながった。</li> <li>・地域学校協働活動の参画の中心は保護者であり、保護者同士のネットワークが図られ、PTA活動の活性化、家庭の教育力の向上へと繋がっている。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアや推進員の要望に積極的に応え、研修会や情報交換会等の目的を明確にし内容を見直すことで、参加者のやる気を引き出したり、推進員やボランティアのスキルが向上したり、多様な活動への発展へとつながった。</li> <li>・学校、保護者、地域、行政、それぞれにとって風通しのよい関係ができ、ボランティア意識や関心・活動の質が高まり、子ども達の心が育つ活動になってきた。</li> <li>・日ごろの活動の悩みや困りごとをみんなで共有し、問題を解決していく「ボランティア講演会」を実施した。参加者からはボランティアに関わる人たちが同じ悩みを持っていることを知ることができ、今後の活動の励みとなったとの声が多数あった。</li> </ul>
<p style="text-align: center;">課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的な活動とするためにも推進員のスキルアップや後継者の育成に努めることが重要である。</li> <li>・小学校でのボランティア活動は活発だが中学校では難しい為、小・中学校間でボランティアの情報を共有したり、声掛け、呼びかけ等、どう連携していくかが課題である。</li> <li>・地域の人材を生かす機会や交流の場を増やし、地域団体や地域住民を巻き込む工夫や連携・協働体制を構築していくことが必要である。</li> <li>・小学校から中学校への9年間の学びを支える運営体制づくりの促進を進めていく必要性がある。</li> </ul>
<p style="text-align: center;">今後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北名古屋市の現状に応じた活動や交流を進め、活動の意義や価値を伝えながら協力者を増やしていく。</li> <li>・子どもは地域で育てるという意識をもち、将来の地域の担い手の育成や地域へ貢献していく力をつけさせていける活動を推進していく。</li> <li>・幅広い人脈の拡充と人と人とのつながりを大切にすることを常に意識し取り組んでいく。</li> <li>・より多くの地域住民の参画を促すようにホームページでの発信や回覧板等を活用し、地域と学校が協力して活動内容等を広報していく。</li> </ul>
<p style="text-align: center;">外部評価委員 の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市の教育の特色であり、全国的には先進な取り組みで、先進事例として紹介されるまで着実に積み上げが進んできた。推進員の力が向上し、学生ボランティアの増加、協力ボランティア登録者数の高い人数での維持など、また取り組み内容が多彩になってきたことも高く評価できる。コーディネートのおもしろさが自立的に動くようになってきたことや、小学校の授業づくりでの協働も注目したい。予算に関して、ボ</li> </ul>

ランティアにより「軽減」することも大事だが、部活動指導員報酬予算化（学校教育課・昨年度より）など、要になるところに予算をつける支援も引き続き期待する。

- ・北名古屋市はすでに定評があるところである。北名古屋市の取組から学ぼうとする視察が増加していることから裏付けられることである。さらに地域住民がこの事業の価値を認識し、誇りに思うことができるように事業の広報に努められたい。

○実績データ

1 地域学校協働活動推進員設置状況

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度
設置校数	9 校	13 校	13 校
地域学校協働活動推進員数	21 人	22 人	23 人

2 学生ボランティア

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度
学生ボランティア	31 人	39 人	57 人

3 平成30年度学校別地域学校協働活動に係るボランティア登録状況

学校名	人数	学校名	人数	学校名	人数	学校名	人数	
師勝小	72 人	鴨田小	82 人	師勝西小	75 人	白木中	26 人	
西春小	146 人	師勝北小	200 人	白木小	53 人	訓原中	24 人	
師勝南小	120 人	師勝東小	106 人	師勝中	22 人	熊野中	37 人	
五条小	154 人	栗島小	84 人	西春中	25 人	天神中	50 人	
							計	1,276 人

4 地域学校協働活動に係るボランティア活動

区 分	内 容
安全支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校時の引率補助</li> <li>・登下校時のあいさつ 他</li> </ul>
学習支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本の読み聞かせ</li> <li>・授業補助(プール見守り、特別支援学級の補助、書写支援、調理実習補助等)</li> <li>・部活動支援 他</li> </ul>
環境支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室整備</li> <li>・除草、花壇整備 他</li> </ul>
キャリア教育支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業講話</li> <li>・職場体験学習の引き受け</li> <li>・マナー講座講師 他</li> </ul>

○重点目標に係る予算額

(単位:千円)

関係事業名	平成29年度	平成30年度	令和元年度
地域学校協働本部事業	3,164	2,026	2,133

平成29年度は小学生演劇鑑賞事業経費(1,500千円)補正で増額となっている。

## 放課後子ども教室事業

### 平成 30 年度教育委員会点検及び評価書

基本方針	<p>絆づくりと活力あるコミュニティの形成に向けた学習活動や体制づくりの推進</p>
重点目標	<p>社会全体で子どもたちの活動を支援する取組の推進</p>
	<p>放課後の特別教室等を子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）として活用し、学習活動や地域住民との交流活動、体験活動等の取組を通して、社会性、自主性、創造性等豊かな人間性を育む。</p> <p>できる教室からNPO法人等の団体に委託を行い、学校、地域、児童クラブとの連携を図り、放課後児童対策の中核事業として推進していく。</p>
平成30年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後子ども教室の運営を、平成 29 年度から引き続き 2 校（五条、白木小学校）を市直営で運営し、直営以外の 8 校はNPO法人等 3 団体に委託して運営するものとして全 10 校で教室を実施した。</li> <li>・夏休み等の長期休業日も開室(午後 2 時～5 時)した。ただし、お盆期間中、年末年始委は休業とした。</li> <li>・開室日数…全 10 校とも延 229 日(前年度 230 日)とした。</li> <li>・平均 1 日利用児童数 16.8 人(前年度 11.6 人)</li> <li>・「放課後子ども教室運営委員会」を年 3 回開催した。</li> <li>・新たに「児童クラブ・放課後子ども教室合同責任者会議」を年 2 回開催した。</li> </ul>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童クラブ運営委託先と同じNPO法人等へ委託したことにより、制度の理解と保護者との意思疎通が容易となり、前年度と比較しても登録及び参加する児童数が増加した。</li> <li>・宿題を教室内で完結させることにより「やり切る力」を養うとともに保護者からも高い評価を得ている。</li> <li>・児童クラブが実施するレクリエーション行事に参加することが可能となり児童にとって有意義なものとなった。</li> <li>・地域やボランティアの皆さんのご協力により体験学習を開催し、地域との繋がりを深めた。特に夏休みに地元誌編集者による「読書感想文書き方教室」を開催したところ多くの参加者があった。</li> </ul>

<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフの中には、教員経験の無い者も多く、経験不足から児童の学習支援に不慣れなケースも見られることから、研修、情報交換等の場を増やす必要がある。</li> <li>・発達障害など、教室に馴染めない児童への対応に苦慮している。</li> <li>・使用教室が、理科室や家庭科室等の一般の教室ではない部屋が多く、スタッフからの環境改善の要望が多い。</li> <li>・学習支援に特化した教室運営を進めるため「やり切る力」を身に付ける授業運営の研究が必要。</li> <li>・夏休み期間中、児童クラブからの移動(午後1時から2時)が炎天下で行われるため、熱中症対策が喫緊の課題である。</li> </ul>
<p>今後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童クラブ主催の研修等にも参加、また他の自治体との交流会を開催するなど、スキルアップを進める。</li> <li>・障害等のある児童には、学校の先生や児童クラブから児童の特徴を聞くなど、事前の把握と受け入れ態勢の改善に努める。</li> <li>・使用教室の環境改善には、できるところから着手していく。</li> <li>・放課後子ども教室のスタッフが地域学校協働活動へも参加して学校等との関係強化を図り、協力体制の強化を進める。</li> <li>・時間中に宿題をやり切るよう指導し、答合せまで終了してから自主学習に取り組むよう改善していく。</li> <li>・連携型の1校については、どのような方策があるのか検討し、一体型運営を進めていく。</li> </ul>
<p>外部評価委員 の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営方法、内容、指導員のあり方それぞれで問題が起こるごとに、当事者と相談しながら改善を図り、「声」として保護者から評価を得る状態にしているのは高く評価できる。この事業は、〈授業での地域学校協働〉への中間段階として、実験的な意義があると考えられる。地元誌編集者による「教室」の参加者が多かったことは、この方向に市民のニーズがある根拠になる。</li> <li>・ここ数年の取組を振り返ると、様々な問題に対して的確な対応を積み重ねてきた成果が出ているととらえている。地域住民の参加もあり、より望ましい方向に進んでいることも喜ばしい。</li> </ul> <p>「やり切る力の養成」が成果と共に、課題にも示されているが、道徳教育の立場から、子どもたちには、ここまでの環境が整えられていることに「気づき感謝する心」も養いたい。</p>

○実績データ

平成 30 年度放課後子ども教室

(1) 概要

- ・実施日時 学校給食のある月曜日から金曜日の授業終了後から午後 5 時 30 分まで。なお、春休み・夏休み・冬休みは、午後 2 時から午後 5 時まで。  
(ただし、お盆と年末年始は休業する。)
- ・実施場所 全小学校の特別教室
- ・対象生徒 小学校 3 年生から 6 年生
- ・定員数 各教室 おおむね 40 人
- ・活動内容 宿題、自主学習(教材プリント)、体験・交流活動等
- ・利用料 1 人月額 2,500 円(夏休み期間は別途加算あり。)
- ・運営形態 市直営 2 校(五条小学校・白木小学校)  
事業委託 8 校(上記 2 校以外 NPO 法人等 3 団体へ委託)
- ・指導者配置 各教室コーディネーター1 名及びサポーター1 名等の配置

(2) 出席状況

学校名	登録数(当初)	開室数	延べ出席者数	1 日平均
師勝小学校	58 人	228 日	3,669 人	16.1 人
西春小学校	38 人	229 日	2,515 人	11.0 人
師勝南小学校	57 人	229 日	4,822 人	21.1 人
五条小学校	44 人	229 日	3,003 人	13.1 人
鴨田小学校	25 人	229 日	1,797 人	7.8 人
師勝北小学校	30 人	229 日	3,451 人	15.1 人
師勝東学校	50 人	229 日	3,187 人	13.9 人
栗島小学校	20 人	229 日	2,218 人	9.7 人
師勝西小学校	73 人	229 日	4,418 人	19.3 人
白木小学校	33 人	229 日	2,677 人	11.7 人
計	428 人		31,757 人	13.9 人

○重点目標に係る予算額

(単位:千円)

関係事業名	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
放課後子ども教室事業	41,123	57,686	55,815

## 家庭教育推進事業

### 平成30年度教育委員会点検及び評価書

基本方針	絆づくりと活力あるコミュニティの形成に向けた学習活動や体制づくりの推進
重点目標	地域・家庭の教育力を高める。
	心身ともに健康で、心豊かな人間性を育てるため、教育の基本となる家庭での教育を支援するとともに、地域ぐるみで子どもの豊かな人間性を育成するため、地域・家庭の教育力の活性化を図る。
平成30年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育推進講演会（保育園・小学校）の実施 家庭教育推進講演会（保育園）では、保育園児保護者を対象に、絵本セラピストとアロマセラピストによる絵本やアロマを通じて築く親子の絆についての講演を2園で、家庭教育アドバイザーによるネットやゲームとの付き合い方やこれからの教育についての講演を5園で実施した。</li> <li>家庭教育推進講演会（小学校）では、来年度入学予定児童の保護者を対象に、尾張教育事務所 家庭教育コーディネーターによる子どもを取り巻く環境や家庭でのしつけ、相談窓口についての講演を8校で実施した。</li> <li>・いきいき子育て講座の実施 子育て中やこれから親になる方を対象に、子育てに関する知識の提供や仲間づくり及びリフレッシュの場となるための講座を託児付きで全8回開催した。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育推進講演会では、多忙な保護者でも参加できるよう、保育園は降園時間帯に、小学校は未就学児健診の間を利用して開催したため、多くの保護者に知識を提供したり家庭教育の重要性を伝えることができた。</li> <li>・いきいき子育て講座では、知識を得たり子育ての仲間を作るだけでなく、各講座の講師へ個別に教室の申込みをする等、さらに活動を広げる参加者もあり、家庭の教育力を活性化させることができた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育推進講演会（保育園）の参加者数が前年度よりも減少した。</li> <li>・いきいき子育て講座の参加者数が伸び悩んでいる。</li> </ul>

<p>今後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の参加率を上げるため、講演会や講座の開催日を土・日曜日に開催する等、多忙な子育て中の保護者が参加しやすい開催方法を検討する。また、地域学校協働活動推進員や児童館、児童クラブを通じる等、より多くの保護者に周知する方法も検討する。</li> </ul>
<p>外部評価委員 の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者数が少なくても、あるいは参加者が少ないからこそやるべき取り組みであることがわかる。その後の問題発生を未然に防いでいる部分があるように思う。保育園で実施したり、託児をつけたりするなど、実施の方法に工夫されている。IT化が有効な分野かもしれない。一方で、「親の会」の「ついで」に少し語り合うとか、この事業の「土壌」になるような取り組みを重視してほしい。</li> <li>・地域・家庭の教育力活性化のために、長年にわたり、様々な手立てが打たれていると評価している。 事業への参加者数の減少していることは、昨今の社会状況を考えると致し方ないと思うこともあるが、減少化に歯止めをかけるために、ネットワークの利用が考えられる。Society5.0という言葉に象徴されるように、社会の情報化はますます広がっている。スマホによって情報を得ている保護者の数は加速度的に増加していると言っても過言ではない。例えば、すでにネット上で流れている有益な家庭教育に関する動画やコラムなどを集約したサイトを作り、その視聴を呼びかけることを考えても良い時代である。</li> </ul>

○実績データ

1 家庭教育推進講演会（保育園）開催状況

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
開催園	7園	7園	7園
参加者数	143人	171人	118人

2 家庭教育推進講演会（小学校）開催状況

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
開催校	9校	9校	8校

3 いきいき子育て講座参加者数

平成28年度	平成29年度	平成30年度
21人	14人	19人

○重点目標に係る予算額

(単位:千円)

関係事業名	平成29年度	平成30年度	令和元年度
家庭教育推進講演会講師謝礼	90	120	40
いきいき子育て講座委託料	100	100	100

## 土曜日の子どもの居場所づくり事業

### 平成 30 年度教育委員会点検及び評価書

基本方針	絆づくりと活力あるコミュニティの形成に向けた学習活動や体制づくりの推進
重点目標	社会全体で子どもたちの活動を支援する取組の推進
	子どもたちの土曜日の教育活動を充実するため、地域の多様な経験や技能を持つ人材・企業等の協力を得て、土曜日ならではのプログラムを実施する。
平成30年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜英語教室 各小学校区の児童館などで、小学校2・3年生を対象に年20回にわたり、低学年から英語に慣れ親しんで頂くことを目的に土曜英語教室を実施した。</li> <li>・子ども伝統芸能体験教室（能田徳若万歳） 能田公民館において、小学校5・6年生を対象に年10回にわたり、伝統芸能を通して感性や心を育てることを目的に子ども伝統芸能体験教室を実施した。</li> <li>・子ども人形劇団 文化勤労会館などで、小・中学生を対象に年20回にわたり、感情や情緒を育み道徳的な意識や価値観を養うことを目的に子ども人形劇団を実施した。</li> <li>・少年少女発明クラブ 市環境学習センターにおいて、小・中学生を対象に年10回にわたり、理科学力の向上と将来の技術者を育成するため少年少女発明クラブを実施した。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4つの事業において延べ648名が参加し、それぞれの目的に準じた成果を残すことができた。</li> <li>・すべての事業において、市民がボランティア講師として参加したことで、子どもたちの居場所づくりを市民との協働で実現できたことが大きな成果といえる。</li> <li>・すべての事業において保護者の関心度も高く、単に居場所づくりだけでなく家族間での会話や親子のふれあいづくりにも大きな役割を果たした。</li> <li>・居場所づくりのための施設として地域の公民館や児童館など利用したことで、子どもたちの安全や保護者の安心を確保することができた。</li> </ul>

<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての事業においてボランティアとなる市民の力が軸となるため、常に新たな人材の確保を進めていく必要がある。</li> <li>・すべての事業において市独自の事業であるため、アンケート等を参考に参加者の声を汲み取り、内容の充実を図る必要がある。</li> <li>・一部の事業においては事業内容が周知されていないものもあるため、対象年齢に応じて広く市民に周知していく必要がある。</li> </ul>
<p>今後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の無い「休日の居場所づくり」がテーマとなることから、活動拠点はできるだけ子どもたちが自力で参加できる場所を選定し進めていく。</li> <li>・最低限、子どもの安全と保護者の安心を確保できるよう、人材の確保に努めていく。</li> <li>・アンケートを分析し、内容の質等を高めていく。</li> <li>・すべての事業において定員を満たすよう、学校や民間などに協力を求め周知を進める。</li> </ul>
<p>外部評価委員 の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれ着実に実施されている。参加者の声を集めて、ここで学んだことがどう広がっていくのか、実態を把握したい。</li> <li>・子どもの居場所づくりとして、小学校2年、3年を対象に「英語教室」を開催していることは特筆すべきことである。また、「少年少女発明クラブ」に351人も参加者がいることにも注目したい。居場所をつくるばかりではなく、そこでの学びが学校教育や生涯教育へつながる可能性が大きいからである。</li> </ul>

○実績データ

1 土曜英語教室参加者数

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
小学校4年生	93人	—	—
小学校3年生	97人	132人	128人
小学校2年生	—	106人	147人
合計	190人	238人	275人

2 子ども伝統芸能体験教室参加者数

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
合計	—	12人	12人

3 子ども人形劇団参加者数

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
合計	19人	15人	10人

4 少年少女発明クラブ参加者数

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
ものづくりコース	243人	293人	256人
ロボットコース	44人	56人	53人
自由製作コース	—	—	42人
合計	287人	349人	351人

○重点目標に係る予算額

(単位:千円)

関係事業名	平成29年度	平成30年度	令和元年度
土曜英語教室	6,410	6,089	5,799
子ども伝統芸能体験教室	550	250	240
子ども人形劇団	416	416	416
少年少女発明クラブ	2,200	2,200	2,200

## 子どもの読書活動の推進

### 平成30年度教育委員会点検及び評価書

基本方針	生涯学習・社会教育の推進を支える基盤の整備													
重点目標	社会教育施設の運営の質の向上													
	市民に親しまれる図書館として、その機能を十分生かせるよう管理に努める。													
平成30年度 の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども向け各種イベントの開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>【東図書館】 <p>こども映画会、サンデーロードショー、紙芝居会、お話会、ストーリーテリング、子ども司書体験、図書館は玉手箱！2018、夏休み科学あそび講座、リサイクルフェア、落語を楽しもう！図書館寄席</p> </li> <li>【西図書館】 <p>夏休み・冬休み上映会、お話会、ストーリーテリング、夏休み司書体験、星まつり、クリスマス会、リサイクルフェア</p> </li> </ul> </li> </ul> <p>特に東図書館で4月21日、22日に実施した「子ども読書の日」記念事業 図書館は玉手箱では、人形劇、ワークショップ、映画会、お話会、紙芝居会などを実施し563人の参加者を数え、子ども達に広く図書館の楽しさを印象付けるのに寄与した。</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">図書館は玉手箱！</td> <td>開催年度</td> <td>26</td> <td>27</td> <td>28</td> <td>29</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>502</td> <td>620</td> <td>536</td> <td>802</td> <td>563</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども読書活動推進スキーム（第2期）の策定 <p>「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、北名古屋市の実情に応じて子どもの読書活動の推進に関する施策を計画的に遂行するためのスキームを策定した。</p> </li> </ul>	図書館は玉手箱！	開催年度	26	27	28	29	30	参加人数	502	620	536	802	563
図書館は玉手箱！	開催年度		26	27	28	29	30							
	参加人数	502	620	536	802	563								
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館は玉手箱や各種行事で図書館の楽しさを広くPRした結果、児童書の貸出冊数が平成26年度264,326冊であったのが、平成30年度289,192冊と9.4%増加した。</li> <li>各種イベントへの参加者について変動はあるが、安定して参加及び好評を得ている。</li> <li>子ども読書活動推進スキームを策定することにより、事業の方向性と職員の意識改革につながった。</li> </ul>													
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>少子化により、中学生以下の人口の減少が多少は見込まれるが、図書館での読書の楽しさを伝えるとともに、より質の高い学習機会を提供する</li> </ul>													

	<p>必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東西図書館の特性を活用した取組みを構築する必要がある。</li> <li>・各種イベントを支援するボランティアグループの高齢化が進んでおり、新たなボランティア育成や、図書館ボランティアのノウハウの継承が必要となってきた。</li> </ul>
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の質を高める方策を検討するとともに、運営の主体となりうるボランティアの育成に注力する。</li> </ul>
外部評価委員 の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多彩なとりくみが計画性を持って着実に進められている。児童書の貸し出し増加など成果も出ている。本のある場所だけでなく本で人のつながりが広がる図書館になっている。ボランティアの高齢化、ノウハウ継承の必要性などは、逆手にとって、ほかの事業との協働をはかる機会の〈発信〉にかえてほしい。</li> <li>・取組によって成果が上がっている。今後、可能であれば、「居場所づくり事業」も含めて、子どもの学校外での活動が自ら記録できるノートやポートフォリオを行政として用意することはできないだろうか。学びの記録を自身で積み重ねることは「メタ認知力」を高める上で有効である。大学入試はこれからポートフォリオを活用する方向に進んでいることも提言の理由である。</li> </ul>

○実績データ

(東図書館)

※( )はH26とH30とで開催回数が異なる行事の、1回当たりの参加人数

年 度		H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
こども映画会	開催回数	16	12	12	13	10
	参加人数	221(14)	225	219	227	198(20)
サンデーロードショー	開催回数	12	11	11	12	12
	参加人数	228	223	177	239	232
紙芝居会	開催回数	11	11	12	12	11
	参加人数	112	116	135	146	108
お話し会	開催回数	12	11	12	12	11
	参加人数	133	96	130	190	144
ストーリーテリング	開催回数	2	1	2	2	1
	参加人数	22(11)	15	17	19	14
図書館は玉手箱!	開催回数	1	1	1	1	1
	参加人数	502	620	536	802	563
子ども司書体験	開催回数	2	2	2	2	2
	参加人数	12	12	12	12	12
夏休み科学あそび講座	開催回数	2	1	1	1	1
	参加人数	26(13)	20	23	20	19
マジックショー IN 北名古屋市東図書館	開催回数	1	1	1	—注	1
	参加人数	70	68	71	—	75
リサイクルフェア	開催回数	1	1	1	1	1
	参加人数	528	642	551	501	505
落語を楽しもう! 図書館寄席	開催回数	1	—	1	1	1
	参加人数	80	—	68	95	96

注：台風のため中止

(西図書館)

年 度		H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
夏・冬休み上映会	開催回数	4	4	4	4	4
	参加人数	56	56	50	21	32
お話し会	開催回数	29	29	29	30	31
	参加人数	249(9)	273	254	322	344(7)
ストーリーテリング	開催回数	6	6	6	3	3
	参加人数	64(11)	35	44	18	22(7)
夏休み	開催回数	4	4	4	2	4

司書体験	参加人数	7	8	7	2	8
星まつり (お話し会)	開催回数	1	1	1	1	1
	参加人数	83	72	71	71	43
クリスマス会 (お話し会)	開催回数	1	1	1	1	1
	参加人数	39	46	68	47	93
リサイクルフェア	開催回数	1	1	1	1	1
	参加人数	310	412	339	375	293

入館者数、貸出者数及び貸出点数

(東図書館)

年 度	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
開館日数(日)	285	288	287	287	283
入館者数(人)	340,811	339,670	342,517	367,455	332,726
1日平均入館者数(人)	1,196	1,179	1,193	1,280	1,176
貸出者数(人)	95,628	97,982	93,858	92,136	90,489
貸出点数(点)	429,372	444,464	427,000	427,944	419,893
うち児童書	195,085	207,394	200,087	208,136	207,013

(西図書館)

年 度	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
開館日数(日)	286	289	287	288	289
入館者数(人)	115,531	115,816	119,279	122,854	124,268
1日平均入館者数(人)	404	401	416	427	430
貸出者数(人)	33,869	34,116	34,216	34,547	34,830
貸出点数(点)	154,587	154,834	158,163	165,275	164,868
うち児童書	69,241	69,581	75,565	82,776	82,179

○重点目標に係る予算額

(単位：千円)

関係事業名	平成29年度	平成30年度	令和元年度
図書館運営事業	68,644	69,437	71,948

## 特別展・企画展に伴うワークショップの充実

### 平成30年度教育委員会点検及び評価書

基本方針	現代的・社会的課題及びライフステージに応じた学習機会の充実
重点目標	歴史民俗資料館による学習機会の提供
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別展・企画展に伴うワークショップの充実</li> </ul> 特別展及び企画展の主旨を伝える教育普及事業としてワークショップの充実を図り、展示会を活性化する。
平成30年度の取組内容	<p>特別展及び企画展に伴い展示会の開催意図を伝達し、展示会を通してより豊かな情報を提供するため体験型のワークショップの充実を図った。ワークショップの講師にアートエデュケーターを招へいすることにより企画立案から博物館の開催意図を組み込むことに注力した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展「ハルイロ✿昭和かわいいモノ手帖」 開催期間 3月1日～5月30日 「アププリケアニマル」4月15日 参加者22名 フェルトを使って、昭和レトロデザインのかわいい動物アププリケをつくる。 「ビーズでフシギカワイイ生き物をつくろう」5月19日 参加者21名 かわいらしくユーモラスな昭和レトロデザインを意識して、ビーズを自由に組み合わせて不思議でかわいい生き物をつくる。</li> <li>・企画展「昭和少女・夏休み絵モノ語り」 開催期間 7月14日～9月2日 「昭和日常博物館で夏の絵日記をかこう」8月4日 参加者18名 昭和時代の絵日記を参考に、夏休みや昭和日常博物館の見学の思い出を絵日記にする。 「とびだす立体絵日記をつくろう」8月5日 参加者20名 さまざまな仕かけを工夫して、昭和日常博物館見学の思い出をとびだす立体絵日記にする。 「海辺のおみやげの定番・貝細工のおみやげをつくろう」8月12日 参加者23名 海辺のおみやげとして人気があった貝細工をじっくり観察して、自分で考えたオリジナルの貝細工おみやげをつくる。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別展「アノヒノ オヤツ カタログ —なつかしいおやつにまつわるエトセトラ—」10月13日～1月30日</li> <li>「キャラメルのパッケージをつくろう」11月9日 参加者18名 昭和時代のキャラメルなどのパッケージデザインを参考にオリジナルのキャラメル箱をつくる。</li> <li>「キャラメルのおまけをつくろう」1月26日 参加者31名 昭和時代のお菓子のおまけをよく観察して、自分だけの小さなおまけをつくる。</li> </ul> <p>※ ワークショップの定員は20名とし、参加対象・年齢などに制限は設けていない。参加費は無料とした。</p>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示会の意図を反映したワークショップを実施することにより企画意図を鮮明に伝えることができた。また、参加者へのヒアリングにおいても好評を博し、さらに、ワークショップへのリピーターも見られるようになった。</li> <li>・また、企画立案に講師であるアートエデュケーターを交えることにより独自性の高いワークショップを構築することができた。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、ワークショップは日時、定員を定めて実施しており、今後は、いつでも参加できる常設型のワークショップの開催が期待されている。</li> </ul>
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップの質の向上を図るとともに、開催回数の増加を図るとともに、課題とした常設型のワークショップの実現に向けた検討を行っていくことで教育普及活動のサービス充実を目指す。</li> </ul>
外部評価委員 の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもしろい取り組みが多い。ここでの〈強み〉は、質の高い〈もの（文化）〉があること（しかも身近にあるもの）と、その意味が語れる専門家をコーディネートできることだろう。ワークショップ参加者の〈受講後の未来〉の道筋を把握できればと思う。</li> <li>・公共の資料館等は、運営母体が安定しているため、ともすると前年度踏襲となっているところが多いが、様々なワークショップを行っておられ、さらなる継続が望みたい。</li> </ul>

○実績データ

歴史民俗資料館入館者数

(単位：人)

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
入館者数	39,894	40,127	32,825	46,895	61,853	44,216

ワークショップ開催実績

(単位：開催回数)

年 度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
回 数	6	5	3	2	7

○重点目標に係る予算額

(単位：千円)

関係事業名	平成29年度	平成30年度	令和元年度
歴史民俗資料館運営事業	12,536	12,596	11,778



### Ⅲ スポーツ課

スポーツ課では、「スポーツ基本法」、「北名古屋市教育大綱」、「北名古屋市民スポーツ推進スキーム」の理念を踏まえ、市民一人一人がそれぞれのライフステージや興味・関心等に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しみ、活力ある「健康快適都市」を実現するための施策を行った。

「子どものスポーツ機会の充実」としては、市内に6つある総合型地域スポーツクラブを統括している北名古屋ふれあいスポーツクラブに対し運営費の一部を補助するとともに各種事業を支援した。

「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」については、スポーツ教室、市民体育祭、ふるさとマラソン等、市民の体力向上、健康の保持・増進及び市民相互の交流の場としての多様なスポーツ機会の提供に努めるとともにスポーツ競技の全国大会へ出場される方に激励金を支給し、本市の名声と競技力の向上を図った。

「市民が主体的に参画する地域スポーツ環境の整備」については、スポーツ推進委員・スポーツ地域委員に対し、各種研修への参加や各種事業への参画を促し、スポーツ指導者の資質向上に努めた。また、総合体育館、学校施設開放等の体育施設改修工事を実施し、スポーツ施設充実の推進、利用者の安全性及び利便性の向上を図った。

「新しい時代にふさわしいスポーツ指導と組織運営の推進」については、スポーツの推進と市民の心身の健全な発達、健康増進を図ることを目的に活動している北名古屋市体育協会及びレクリエーションの総合的な普及・振興と市民の心身の健全な発達、明るく豊かな市民生活の形成を目的に活動している北名古屋市レクリエーション協会に対し運営費の一部を補助するとともに各種事業を支援した。

## 子どものスポーツ機会の充実

### 平成 30 年度教育委員会点検及び評価書

基本方針	子どものスポーツ機会を充実する。
重点目標	子どもを取り巻く社会のスポーツ環境の充実
	地域社会全体が連携・協働して、総合型クラブをはじめとした地域のスポーツ環境の充実により、子どものスポーツ機会を向上させる。
平成30年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>「いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しむ」ことを目的に、地域と密着した総合型地域スポーツクラブを統括している北名古屋ふれあいスポーツクラブに対し、運営費の一部を補助するとともに、主体的及び透明性のある組織運営のための体制整備と各種事業を支援した。</li> </ul>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふれあいスポーツクラブの加盟6クラブによる子どもを対象としたスポーツの常時活動や学校・地域との連携によるイベントを開催し、子どものスポーツ環境の充実に寄与することができた。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内小中学生のふれあいスポーツクラブへの参加率が 12.1%と低く、また、スクールを効率良くかつ安全に運営するために施設の規模や指導者の人数等から設定した適正人数を下回っているため、小中学生の会員増に向けた新たな取り組みが必要である。</li> </ul>
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どものニーズにあったスクールの見直しを行うとともに子どもたちの放課後における学習活動の支援や地域住民との交流等を通して、社会性、自立性、創造性等の豊かな人間性を育むことを目的に、市内小学校 10 校で実施されている「放課後子ども教室」にふれあいスポーツクラブからも協力し、子どもたちの健全育成に寄与すると同時に、ふれあいスポーツクラブの会員となってもらうことにより、双方の目的達成に繋げていけるよう各スポーツクラブとともに検討していく。</li> </ul>
外部評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちを「いつでも、どこでも、いつまでも」のスポーツ人生に引き込むようなよい取り組みが多い。「放課後子ども教室」との連携も試行錯誤してほしい。評価に関して、「声」がわかりやすい。「適正人数」設定もよい。多いところ、少ないところの「課題」をみつけるよい指標になる。おそらく豊かでさかんと思われるので、それが自覚できる範囲で、ほかの市町村や全国と対比して評価してほしい。</li> <li>例えば、「スポーツクラブの小中学生会員数」の適正人数を掲げ、その数値との乖離を分析するなど、真摯な振り返りがされていることを評価したい。こうした姿勢があつてこそ、次の一手が生まれるものである。</li> </ul>

○実績データ

1 加盟6スポーツクラブの小中学生会員数

クラブ名	平成29年度会員数	平成30年度会員数
鴨田スポーツクラブ	106人（適正人数 95人）	104人（適正人数 95人）
西春スポーツクラブ	25人（適正人数 85人）	31人（適正人数 85人）
白木スポーツクラブ	25人（適正人数 55人）	18人（適正人数 55人）
五条スポーツクラブ	80人（適正人数 45人）	50人（適正人数 45人）
栗島スポーツクラブ	14人（適正人数 85人）	16人（適正人数 85人）
東スポーツクラブ	89人（適正人数 65人）	82人（適正人数 65人）
合 計	339人（適正人数430人） 小中学生参加率13.2% （全児童・生徒数 7,469人）	301人（適正人数430人） 小中学生参加率12.1% （全児童・生徒数 7,446人）

2 加盟スポーツクラブ等における小中学生のみを対象としたスクールの延べ参加者数

クラブ名	スクール名	延べ参加者数	計	平成29年度延べ参加者数
6スポーツクラブ共通	ジュニアバレーボール（月2回）	100人	100人	134人
鴨田スポーツクラブ	トータルスポーツ（月2回）	244人	1,015人	764人
	バスケットボール（月2回）	653人		
	ソフトテニス（月4回）	118人		
西春スポーツクラブ	トータルスポーツ（月2回）	231人	231人	142人
白木スポーツクラブ	バスケットボール（月2回）	14人	214人	224人
	ソフトテニス（月4回）	200人		
五条スポーツクラブ	トータルスポーツ（月2回）	81人	81人	136人
東スポーツクラブ	子どもリズム体操教室（年3回）	58人	1,285人	1,402人
	剣道（週1回）	607人		
	キッズヒップホップ（週1回）	620人		
合 計		2,926人		2,802人

3 スポーツチャレンジデー

年 度	参加者数	種 目
平成29年度	357人	ヘキサスロン、ソフトバレーボール、卓球、健康体操、ヨガ等
平成30年度	283人	ヘキサスロン、ソフトバレーボール、卓球、健康体操、レク式体力テスト等

○重点目標に係る予算額

（単位：千円）

関係事業名	平成29年度	平成30年度	令和元年度
スポーツクラブ推進事業	7,224	7,224	7,224

## ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

### 平成30年度教育委員会点検及び評価書

基本方針	ライフステージに応じたスポーツ活動を推進する。
重点目標	ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進
	年齢、性別を問わず人々がスポーツを行うようにするとともに既にスポーツを行っている者については、さらなる実施頻度の向上を目指し、ライフステージに応じたスポーツ参加等を促進する環境を整備する。
平成30年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>• スポーツ競技全国大会等激励 全国大会等に選手として出場される方に激励金を支給し、競技スポーツの振興と競技力の向上を図った。</li> <li>• 親子体操教室 体操を通じた体力向上、健康増進及び親子のふれあいの場としてもらうことを目的に実施した。</li> <li>• 少年少女バスケットボール教室 バスケットボールの基本的な知識、技術の習得と本市のスポーツ推進を目的に実施した。</li> <li>• 妙高市コシヒカリマラソン参加ツアー 市民の体力づくりと健康の保持・増進を図るとともに本市と災害時相互応援協定を締結している新潟県妙高市との交流事業の一環として、妙高市コシヒカリマラソンに参加した。</li> <li>• 市民体育祭 市民の健康づくりや健全な地域づくりを目的に実行委員会を組織し、実施した。</li> <li>• 愛知県市町村対抗駅伝競走大会 2005年に開催された「愛知万博」のメモリアルイベントとして、また、県内各市町村の交流、県民意識の高揚、県民スポーツの振興を目的に開催された愛知県市町村対抗駅伝競走大会へ市代表チームを編成し、参加した。</li> <li>• 北なごやふるさとマラソン 体力づくりと健康の保持・増進及び参加者相互の交流を目的に実行委員会を組織し、実施した。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 市民に、スポーツを始めるきっかけとしてもらうことや実施頻度を向上してもらうことを目的とした各種事業の実施により、ライフステージに応じたスポーツ参加を促進することができた。</li> <li>• 愛知県市町村対抗駅伝競走大会の市代表選手選考会への申込者を対象に事前練習会を実施したことにより、選考会への参加者が増加した。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• スポーツイベントに参加した市民が、その後もスポーツ活動を継続できる体制づくりが必要である。</li> <li>• 施設規模や運営スタッフ数等から設定した適正人数を下回っている事業については、参加者増に向けた取組が必要である。</li> </ul>

今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツイベントへの参加だけでなく、その後も参加者がスポーツ活動を継続できるよう自主的なクラブ化等の支援を行う。</li> <li>・スポーツイベントにおいては、全てアンケート調査を実施し、参加者の満足度やニーズの掌握に努め、内容充実や新たな事業への変換などを検討していく。また、幼少期や高齢者、あるいは女性などターゲットを絞った事業、更には家族同士で参加できる事業など、これまで、スポーツに関わってこなかった人も気軽にスポーツに親しむことができる事業の実施についてスポーツ推進委員とともに検討する。</li> </ul>
外部評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組んだ分だけ成果がどんどん出ていると感じる。特に参加した人を大切にして、激励金を出し、声をひろっている点はすばらしい。「広報北名古屋」でも、北名古屋市はスポーツが盛んで、いろいろな機会があることがわかり、前年の取り組みに感心しつつ、やってみたいと思えるような内容である。課題の方向も明確である。</li> <li>・今後、参加者すべてにアンケートを行い、数値ばかりではなくエピソードでその成果を示していくことを表明された。エピソードの積み上げと周知が、さらなる参加者を増すと考える。期待したい。</li> </ul>

○実績データ

1 各種事業参加者数

事業名	平成 29 年度参加者数	平成 30 年度参加者数
スポーツ競技全国大会出場激励者	96 人・4 団体	96 人・1 団体
親子体操教室 【対象：年少児から年長児までの子どもと保護者】	8 組 16 人 (適正人数 20 人)	8 組 19 人 (適正人数 20 人)
少年・少女バスケットボール教室 【対象：小学生】	40 人 (適正人数 40 人)	49 人 (適正人数 40 人)
妙高市コシヒカリマラソンツアー 【対象：年齢制限なし(中学生以下保護者同伴)】	12 人 (高校生以上 12 人) (適正人数 20 人)	10 人 (高校生以上 10 人) (適正人数 20 人)
市民体育祭 【対象：幼児以上(種目によって異なる)】	1,635 人 (適正人数 2,200 人)	1,640 人 (適正人数 2,200 人)
北なごやふるさとマラソン 【マラソン対象：1.7km 小学 4～6 年生、2.5km・5km 中学生以上】 【ウォーキング対象：年齢制限なし(未就学児保護者同伴)】	913 人 (1.7km マラソン小学生 156 人) (2.5km マラソン中学生 6 人) (2.5km マラソン高校生以上 44 人) (5km マラソン中学生 3 人) (5km マラソン高校生以上 336 人) (ウォーキング 368 人) (適正人数 1,400 人)	798 人 (1.7km マラソン小学生 144 人) (2.5km マラソン中学生 9 人) (2.5km マラソン高校生以上 29 人) (5km マラソン中学生 31 人) (5km マラソン高校生以上 299 人) (ウォーキング 286 人) (適正人数 1,400 人)
愛知駅伝市代表選手選考会 【対象：小学 4 年生以上】	37 人 (適正人数 85 人)	57 人 (適正人数 85 人)

※平成 30 年度北なごやふるさとマラソンについては、当日降雨であったことが影響し、事前申込者 1,107 人に対し当日参加者が 798 人と大幅な減となった。

## 2 事業参加者アンケート結果

### (1) 親子体操教室

自由記入欄	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもも飽きることなく楽しく受講できた。</li> <li>・子どもの体力についていけないと感じたので親の私も毎日簡単な運動を行いたい。</li> <li>・4日間ではなくもっと長くやってほしい。</li> </ul>
他にやってほしいスポーツ教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器械体操（とび箱・マット・鉄棒等）、スケート、トラポリン</li> </ul>

### (2) 少年少女バスケットボール教室

自由記入欄	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導がわかりやすかった。</li> <li>・初めてバスケットボールをやったが、とても楽しく興味を持った。</li> <li>・中学生のお兄さんたちが近くで教えてくれて楽しかった。</li> <li>・バスケットボールの部活にも入りたい。</li> <li>・4日間ではなくもっと長くやってほしい。</li> </ul>
-------	--

### (3) 妙高市コシヒカリマラソン

自由記入欄	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妙高市民全体で大会を盛り上げていて、また、参加したいと思った。</li> <li>・中学生スタッフのテキパキとした態度に感心した。</li> <li>・ゴール後に配られたおにぎりの味は忘れられない。</li> </ul>
-------	--

### (4) 愛知県市町村対抗駅伝競走大会

愛知駅伝感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビに映れてうれしかった。</li> <li>・他市の速い人と走り、負けたくないという気持ちが強くなった。</li> <li>・チームのメンバーが仲良く練習、大会に望むことができ楽しかった。</li> <li>・一人ではなくチームで挑んでいることが感じられて、楽しかった。</li> </ul>
--------	--

### ○重点目標に係る予算額

(単位：千円)

関係事業名	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
スポーツ競技全国大会出場者 激励	800	1,000	1,000
親子体操教室	47	50	36
少年少女バスケットボール教室	67	109	-
妙高市コシヒカリマラソン	324	299	304
市民体育祭	2,200	2,200	2,200
北なごやふるさとマラソン	10,000	8,951	8,507
愛知駅伝	858	958	910
合 計	14,296	13,567	12,957

## 市民が主体的に参画する地域のスポーツ環境整備

### 平成30年度教育委員会点検及び評価書

基本方針	市民が主体的に参画する地域のスポーツ環境を整備する。
重点目標	スポーツ施設の充実
	地域における身近なスポーツ活動の場を確保するため、学校体育施設等の有効活用や地域のスポーツ施設を整備する。
平成30年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合体育館空調設備等改修工事（工事費：265,680千円） 既設空調設備更新改修、アリーナ・柔道場・剣道場・更衣室への空調設備新設、照明LED化</li> <li>総合体育館下水道接続工事（工事費：23,950千円） 総合体育館浄化槽を公共下水道に切り替え</li> <li>天神中学校テニスコート改修工事（工事費：10,130千円） 人工芝全面張替改修（4面）</li> <li>総合運動広場駐車場増設用地購入（購入費：55,770千円） グラウンド西側に駐車場増設用の土地1,430㎡を購入</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合体育館において空調設備のなかったアリーナ、柔道場、剣道場等への空調設備の設置や天神中学校テニスコートの人工芝全面張替等の実施により、利用者が快適にスポーツ活動ができる環境を整備することができた。</li> <li>スポーツ施設における破損箇所の速やかな修繕により利用者の安全性を確保するとともに利便性を向上することができた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>老朽化に伴う計画的な施設改修</li> <li>総合体育館利用者数が他自治体の同規模施設の利用者数と比較すると少ない状況である。</li> </ul>
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の安全性及び利便性の向上のため、今後も老朽化に伴う各施設の改修を計画的に実施していく。実施にあたっては、限られた予算の中、優先順位を明確にするとともに効率的な改修に努め、改修による使用不可期間をできる限り短くするなど利用者への支障を最小限に留める。</li> <li>スポーツ施設利用者へのアンケート調査を実施し、その結果をもとに、利用しやすくするための施設改善に努める。また、施設利用申請の際のネット予約の導入やサービス向上に繋がるアウトソーシングについて検討する。</li> </ul> <p>更にはスポーツイベントなどを通じた継続的なスポーツ人口の増員に努め、体育館の利用者増に繋げるなど、ハード面・ソフト面、両面の対策に取り組む。</p>

外部評価委員 の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要な施設改修などを計画的に着実に進めている点が今年も評価できる。空調設備の設置や破損箇所の速やかな修繕は、「あたりまえ」といえばそうだが、なかなかできることではなく、印象に残るよう高く評価すべき点である（数値化は難しいが）。</li> <li>・ 整備が計画的に確実に行われている。</li> </ul>
---------------	--

○実績データ

1 社会体育施設の年間延べ利用者数

施設名	平成 29 年度	平成 30 年度	使用開始年月日
総合体育館	192,656 人	161,483 人	昭和 58 年 10 月 1 日
ジャンボプール	34,355 人	39,510 人	平成 元年 7 月 1 日
総合運動広場 テニスコート	40,432 人	42,980 人	平成 15 年 4 月 1 日 (平成 27 年 8 月 1 日施設名変更)
総合運動広場 グラウンド	29,330 人	28,481 人	平成 27 年 8 月 1 日
ソフトボール球場	26,370 人	20,919 人	昭和 54 年 6 月 12 日
合計	323,143 人	293,373 人	
参考数値 (7・8 月昼間降雨日数)	9 日/62 日	18 日/62 日	

※総合体育館については、平成 30 年 12 月 1 日から平成 31 年 1 月 31 日まで、改修工事のため全館使用不可。

2 計画的改修が必要な主な大規模修繕

施設名	内 容
総合体育館	外壁等改修工事、音響設備等改修工事
ジャンボプール	更衣室・ポンプ等改修工事
学校開放施設	中学校夜間照明設備撤去工事

3 近隣の同規模人口自治体における同規模施設（体育館）との利用者数比較

自治体名	施設名	人口 (H30 年度末)	利用者数 (H30 年度)	予約申請方法
江南市	江南市スポーツセンター	105,341 人	304,120 人	窓口・電話
日進市	日進市スポーツセンター	90,974 人	303,843 人	窓口・インターネット
大府市	大府市民体育館	92,414 人	202,220 人	インターネット
尾張旭市	尾張旭市総合体育館	83,592 人	187,901 人	窓口・インターネット
北名古屋市	北名古屋市総合体育館	86,001 人	161,483 人	窓口

※北名古屋市総合体育館は平成 30 年度、改修工事により 12・1 月の 2 ヶ月間、使用中止としたため、上記は 10 ヶ月分の利用者数（12 ヶ月分に換算した場合は、約 193,000 人）

4 学校開放施設利用回数（小学校 10 校・中学校 6 校・県立西春高校）

区 分	平成 29 年度			平成 30 年度		
	開放回数	利用回数	利用率	開放回数	利用回数	利用率
運動場昼間（土・日曜、祝日）	5,075	4,996	98.4%	5,625	5,357	95.2%
運動場夜間（毎日）	1,067	405	38.0%	966	339	35.1%
体育館昼間（土・日曜、祝日）	4,927	2,562	52.0%	5,196	2,687	51.7%
体育館夜間（毎日）	4,621	3,518	76.1%	4,818	3,581	74.3%
武道場昼間（土・日曜、祝日）	179	12	6.7%	165	6	3.6%
武道場夜間（毎日）	597	241	40.4%	607	245	40.4%
テニスコート昼間（土・日曜、祝日）	1,556	1,165	74.9%	1,596	1,176	73.7%
テニスコート夜間（毎日）	624	415	66.5%	627	411	65.6%
合 計	18,646	13,314	71.4%	19,600	13,802	70.4%

○重点目標に係る予算額

（単位：千円）

関係事業名	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
総合体育館管理事業	74,729	68,504	65,673
プール管理事業	35,427	36,572	37,235
テニスコート管理事業	1,567	1,583	1,568
グラウンド管理事業	8,215	7,143	6,685
ソフトボール球場管理事業	243	222	223
学校開放事業	4,847	4,429	3,829
体育施設整備事業	257,155	426,015	178,031
合 計	382,183	544,468	293,244

## 外部評価委員による全体意見

- ・ 北名古屋市の教育は、いちはやいコミュニティ・スクール化からはじまり、それを担う人の増加、地域資源の活用と着実に積み重ね、TV で紹介されるまでになった。成果も参加者の声として理解できるようになってきている。教育委員会では、日々の個々の問題に、その都度丁寧に取り組むことで事業を進めてきている点を高く評価したい。地域学校協働が、授業においても進められるかが中心課題になろう（師勝北小方式）。この評価書にも報告があるように、地域の担い手は豊かにいる。中学校での地域学校協働は、学校の仕事の「手伝い」というよりは、専門性をもった市民としての協働で進んでいくと思われる。土曜英語教室と授業との連携などの課題である。

新学習指導要領完全実施を迎えるが、北名古屋市の教育の方向と重なっている部分が多い。地域学校協働の「授業」は、教員がその授業で児童生徒がどのような資質・能力を身につけるか、見定める力にかかっている。教育を創造する方向で、働き方が変わり、その教師像にあこがれて教員志望者が増えることを期待する。

学校教育課全体では、事業計画は別々だが、相互の関係をとらえ、活かそうとしている方向は引き続き追求してほしい（アフタースクールと放課後子ども教室、学校教職員などの連携など）。学力定着の分析や授業じたいを地域学校協働にしていくなど、ぜひ進めていただきたい。部活動指導員報酬が昨年度より予算化されたが、このような財政の裏づけを考慮している点は合理的である。宿題の問題も含め、家庭への支援も各学校で取り組みが進むことを望む。

生涯学習課全体としては、一つひとつの企画を丁寧に着実に取り組んでいて、楽しい・おもしろいことが北名古屋市にたくさんあることを今年も確認することができた。地域学校協働の全体から見ると、地域にある確かな主体（団体）の一つである。独自の事業は「磨き」つつ、他部署との連携を進めてほしい。

スポーツ課全体としては、「健康快適都市」北名古屋市の大きな柱の事業を確実に担っていると評価する。この情熱と運営のノウハウを、市民に「分けていく」ことを今後の課題のなかで意識してほしい。

- ・ 外部評価委員として関わらせていただいて4年目となる。教育行政が時代の急激な変化をとらえ、市民のために日々精力的に取り組まれていることは、ここで示された評価項目以外においても、十分に推測できる。このように明記できるのは、私にとっては外部評価委員4年目の成果である。

今後、ますます学校教育は変化への対応が必要である。例えば、文部科学省は令和元年7月1日に「学校教育の情報化の推進に関する法律（令和元年法律第47号）」を公布した。この法律の目的は、「高度情報通信ネットワーク社会の発展に伴い、学校における情報通信技術の活用により学校教育が直面する課題の解決及び学校教育の一層の充実を図ることが重要となっていることに鑑み、全ての児童生徒がその状況に応じて効果

的に教育を受けることができる環境の整備を図るため、学校教育の情報化の推進に関し、基本理念を定め、国、地方公共団体等の責務を明らかにし、及び学校教育の情報化の推進に関する計画の策定その他の必要な事項を定めることにより、学校教育の情報化の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって次代の社会を担う児童生徒の育成に資すること」が目的である。2025年までには、児童生徒一人1台の情報端末配備を目指すことも、中央から聞こえてきている。これまでのように先をしっかりと見通して、設置者としての責任を果たされることを期待したい。